

事業名

シニア女性の出番です！ 防災塾

実施センター

男女共同参画センター横浜南

施設名 男女共同参画センター横浜南

横浜市南区南太田1-7-20

Tel. 045-714-5911 Fax. 045-714-5912

E-mail. mkoho@women.city.yokohama.jp

URL <http://www.women.city.yokohama.jp/>

指定管理者 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

センターについて

1978年に設立された横浜市婦人会館を継ぎ、2005年に男女共同参画センター横浜南(通称:フォーラム南太田)として開館。施設貸出と男女共同参画にかかわる主催事業、市民活動協働事業などを行う。来館者は1日に約500人。横浜市中心部に近く、下町といわれる地域にある。地域の方でにぎわう地モノやさしい市、小箱ショップ、困難をかかえた若い女性のための就労体験「めぐカフェ」なども。

事業内容の紹介

おおむね60歳以上の地域で活動するシニア女性を対象とし、災害時に役立つ女性の視点を学び、日ごろから地域で生かすためのリーダー養成講座。平日午前、全5回で開催。講師には地元の災害事情に詳しい市民活動家、区役所危機管理担当職、東日本大震災女性支援ネットワーク幹事、当協会相談員等を依頼。

実施までの経緯

センターのある横浜市南区は人口密度及び平均年齢が市内で最も高い。住宅の密集、高齢化という特徴から防災・防犯施策などに課題が多いが、人情に厚く世話好きな、昔ながらの下町であるともいわれる。このような特徴から、安全・安心で暮らしやすい地域づくりの担い手としてシニア女性に焦点をあてることにし、2011年夏、南区老人クラブ連合会の協力を得て、横浜市南区で「3月11日」を経験した65歳以上の女性、約900人にアンケート調査を行い、『災害時におけるシニア女性の行動と意識に関する調査報告書』を発行した(2012年3月)。

調査結果では、震災時に実際に「近所の人に声をかけたり安否確認をした」人が35%、できそうなこととして「近所への声かけ」をあげた人が81%おり、9割のシニア女性が地域でなんらかの役に立ちたいと願っていることが明らかになった。震災後、より積極的に地域の防災活動に参加している事例もみられた。

しかし、シニア世代は旧来の性別役割規範の中で生活してこられた世代であり、多数の女性が地域活動に参加しているにもかかわらず、自治会や老人クラブ等の長は9割以上が男性であり、女性が意思決定に参画しているとは言い難い。そこで、これらシニア女性の本来持つ潜在力を生かす試みの一つとして本プログラムを実施した。

学習プログラムの概要

実施日時：2012/10/4～11/15、すべて木曜日午前10時～正午、初回のみ13時～15時

定員：第1, 2回は公開講座として男女40人、第3回以降は女性のみ25人

| | |
|--------------|---|
| 第1回 10/4 | <ul style="list-style-type: none"> ○「YOKOHAMAわたしの防災力ノート」の試み（男女共同参画センターの取組） ○防災・災害復興に女性の視点を～東日本大震災における女性支援に取り組んで |
| 第2回 10/18 | <ul style="list-style-type: none"> ○横浜市南区の防災地図を読む ○まち歩きと点検のチェックポイント |
| 第3回 10/25 | <ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告 ○護身術ミニ体験！ |
| 第4回 11/8 | <ul style="list-style-type: none"> ○相談力向上！～共感的理解ともえつき防止 |
| 第5回 11/15 | <ul style="list-style-type: none"> ○相談を受けたときに役立つ情報提供・相談機関紹介 ○女性が安心な地域づくりと防災を考える |

共催：横浜市市民局男女共同参画推進課、南区役所、横浜市老人クラブ連合会、南区老人クラブ連合会、南区社会福祉協議会

企画協力・講師派遣：東日本大震災女性支援ネットワーク



第1回の宗像恵美子講師。東日本大震災後の、仙台での女性支援の取組が報告された。



第2回ではグループで防災地図を確認。



第3回では護身術を体験することで自信をつける。86歳の女性までイキイキと参加。



第5回のまとめ講義。「女性の力が役立つことがよくわかった」と好評だった。

学習プログラムの具体的構成

【第1回】

| | 学習内容 | ねらい |
|-------|---|--|
| 13:00 | 主催者あいさつ 連続講座のオリエンテーション | |
| 13:10 | 報告：「YOKOHAMAわたしの防災力ノート」の試み（男女共同参画センターの取組） 講師：常光明子（男女共同参画センター横浜北事業課長） | 男女共同参画センターの「女性と災害」についての取組を知ってもらう。 |
| 13:30 | 講演：防災・災害復興に女性の視点を～東日本大震災における女性支援に取り組んで 講師：宗像恵美子（NPO法人イコールネット仙台理事） | 2011年大震災時、実際に避難の現場で女性はどんな状況にあり、女性支援がどのように取り組まれたのかを知る |
| 14:45 | 質疑応答と参加者のコメント | |
| 15:00 | 終了 | |

【第2回】

| | 学習内容 | ねらい |
|-------|--|--|
| 10:00 | 前回のふりかえり、参加者アンケートから感想を紹介 | 「女性の視点」に立った支援活動について振り返る |
| 10:10 | 講演①：横浜市南区の防災地図を読む 講師：南区総務課危機管理担当係長／消防士 | 区役所で入手できる各種ハザードマップ（防災地図）を紹介、地域防災拠点等を確認 |
| 10:50 | 休憩 | 2011年大震災時、実際に避難の現場で女性はどんな状況にあり、女性支援がどのように取り組まれたのかを知る |
| 11:00 | 講演②：まち歩きと点検のチェックポイント 講師：高松清美 （神奈川災害ボランティアネットワーク理事） | |
| 11:50 | 質疑応答と参加者のコメント | |
| 12:00 | 終了 | |

【第3回】

| | 学習内容 | ねらい |
|-------|--|------------------------------|
| 10:00 | 講演：東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告 講師：ゆのまえ知子 （東日本大震災女性支援ネットワーク運営委員） | 災害時に起きている女性・子どもへの暴力について実態を知る |

| | | |
|-------|--|---|
| 10:40 | グループワーク:避難所における名簿づくりとその掲示 (DV被害で家を出ている女性が避難所で暮らす事例の検討) ファシリテーター:ゆのまえ知子 | 1人ひとりの安全を守る方法について事例を通して考える |
| 11:00 | 休憩 | |
| 11:05 | 講義と実技:護身術ミニ体験 講師:橋本明子(WEN-DOインストラクター) | 性被害等は年齢に関係なく起きていることを知り、護身術を体験することによって自信をつける |
| 12:00 | 終了 | |

【第4回】

| | 学習内容 | ねらい |
|-------|---|--|
| 10:00 | 講義とワーク:相談力向上!~共感的理解ともえつき防止 講師:稲邑恭子(大学ハラスメント専門相談員) ①ワーク/エゴグラムで自分のタイプやくせを知る ②講義「被害にあった人からの相談を受けるために」~安心感を与える聴き方、避けたい言葉や態度、緊急度・深刻度を点検する、等 ③グループワーク/相談事例の検討 | 日ごろから地域で相談を受け、聴き役になることの多い女性たちの聴く力の向上をはかる |
| 11:50 | 質疑応答と参加者のコメント | |
| 12:00 | 終了 | |

【第5回】

| | 学習内容 | ねらい |
|-------|--|--|
| 10:00 | 前回(相談力)の振り返り | 相談先紹介につなげる |
| 10:10 | 相談を受けたときに役立つ情報提供・相談機関紹介 合せて、男女共同参画センターの相談室紹介 講師:新堀由美子(男女共同参画センター横浜相談員) | 相談を受けた人が一人で抱え込んでもえつきないために役立つさまざまな相談先を紹介 |
| 10:50 | 講演(まとめ):女性が安心な地域づくりと防災を考える ~避難生活、防災・減災、復興期に見る女性(男性)の困難、災害と男女共同参画・多様性の視点、防災計画・対策の具体化、等 講師:浅野幸子(東日本大震災女性支援ネットワーク 研修コーディネーター) | 地域をよく知る女性が地域づくりに参画することで、「女性の視点」が入った地域防災計画ができたものになり、みんなの安心につながることを伝える |
| 12:00 | 質疑応答 参加者の感想交流会、アンケート記入 | |
| 12:30 | 終了 | |

教材（例）



第2回の防災地図等



第5回の相談機関紹介資料

企画時や実施時に工夫したこと

- シニア層は午前が外出しやすく、また医院の休みが多い木曜日がよいと聞き、開催は木曜日午前とした。
- 参加費無料とするため、連携先である地元の老人クラブ連合会にお願いし、助成を得た。役員会等でいねいに説明し、よい協力関係を築くことに努めた。
- 基本的に連続講座として女性参加者を募集したが、通常とは異なり、前年度の調査以来連携を深めてきた南区老人クラブ連合会の役員会と女性委員会、さらに区役所の担当部署をとおして南区町内会婦人部役員会にて参加を呼びかけ、事務局担当者に参加者を取りまとめてもらった。そのほかに一般からの応募者も受け付けた。
- 担当職員が全回とおして進行役を務めたほか、新規事業のため館長も参加して、参加者の受けとめ方などを肌で把握することに努めた。
- 終了時のアンケートに「今後あなたの町内でこのような防災塾を開催するとして、主催者の一員になれるか」という設問をもうけ、地域での活動のキーになってくれる人材の発掘を試みた。

参加者の声

最終回のアンケートでは、「たいへんよかった」13人（19人中）、「よかった」3人と、満足度は高かった。

- 防災・減災に女性の力が、どれだけ必要かがよくわかった。（多数）
- 地域の男性も参加する防災訓練で、女性の視点を伝える講演をしてほしい。

- 高齢なので受講しても無理ではないかとも思ったが、受講してみて、まだ智恵を出せるかも、いざという時に何かの役に立ちたいという思いを強くした。(82歳)
- 今の時代、連帯性が弱い。何とか人のつながりを強くしたい。真に男女共同参画実行の時代であると実感した。
- 最終回で、具体的にどう女性が防災に関わったらいいかを詳しく聞いたのがよかった。

実施後の状況

- プログラム修了後、全回出席者、「今後地域でさらに活動したい」と回答した数名に手紙で呼びかけ、日時を設定して集ってもらい、今後に向けたグループヒアリングを2013年1月10日に行った(参加者5名)。防災塾を振り返った感想、日頃の地域での防災活動について等々わしくうかがい、地域の事情についてつぶさに知ることができた。
- また、「男女で学ぶ機会も必要」という声にこたえ、ワークショップ形式で〈南太田シニア防災サロン「昔と今の地図を読んで減災」〉を2013年1月31日に開催した。古地図を用いたことで、郷土史を研究するグループの男性たちの参加もあり、各地域での自主開催につながる動きも出てきている。「地域に昼間いるのはシニアと子どもたち」と鈴木光講師(総務省/図上訓練指導員)が強調し、参加者からは「地域の防災訓練などでこのようなプログラムを活用したい」という声も多く上がった。内容についての詳細は当協会ホームページ上での報告「“地域の防災力にはシニアと小・中学生の力が欠かせない”～南太田シニア防災サロン日記」をごらんいただきたい。

<http://psokinawa.ti-da.net/e4134741.html>

今後の実施に向けた課題

- プログラム実施時に気付いた課題としては、シニア世代の女性はグループで事例を検討、議論して発表するなどのワークショップ形式にはなじみがうすく、話し合いにより自他の気付きを深めるには至らなかった。異なる方法をとるか、グループごとにファシリテーターが付くことが必要と思われた。
- 今回は男女共同参画センターで実施したが、今後、地域に分け入ったミニ防災塾開催等を通して、女性の視点が町内会単位で浸透していくことをめざして、その担い手となる今回の防災塾修了者をはじめ地域に潜在する女性リーダーの方々との人的ネットワークを確かなものにしていきたい。

※『災害時におけるシニア女性の行動と意識に関する調査報告書』および関連する事業の報告については、当協会ホームページ上の「女性の視点で考える災害・防災」http://www.women.city.yokohama.jp/find-from-t/shinsai_navi/に掲載しているのでご参照いただければ幸いです。